

平成 29 年度 第 2 回 学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨

日時：平成 30 年 3 月 12 日（月）15:00-17:20

場所：国立情報学研究所 19F 会議室（1901-1903 室）

議事：

1. SINET5 の現状

漆谷委員から、資料 3 に基づき、報告があった。

- ・ 加入機関数、アクセス回線帯域、トラフィック、VPN 利用、直結クラウド利用は引き続き増加している。H30 年度は、国際回線強化（欧州、アジアの 100Gbps 化、米国 NY に対し LA 経由で 100Gbps 化）とともに、IoT 時代に向けてモバイル網と接続した広域データ収集基盤の整備を計画している。

2. 認証（学認、eduroam、UPKI 証明書発行サービス）状況報告

中村特任教授から、資料 4 に基づき、報告があった。

- ・ 学認参加状況に関して、学認に参加しない場合は、個々に ID 認証等を行っていると思われる。参加必須ではないが、セキュリティ、ID 管理、個人情報扱い等の点で、大学等にとってのメリットも多いため、引き続き丁寧な広報普及を図りたい。また、学認と e-Rad との連携に関連した調査を実施している。

3. クラウド導入・利用支援報告

合田委員から、資料 5 に基づき、報告があった。

- ・ ソフトウェアライセンスワークショップを開催し、大学等相互の課題・情報共有、ベンダへの課題・要望のフィードバック等を行った。オンデマンドクラウド構築は、OpenStack を含めた複数のクラウド基盤上で利用可能なテンプレートを開発中であり、ベンダロックイン防止にも役立つ仕組みを検討している。円滑なコンテナマイグレーションにも生かしたい。

4. 大学間連携に基づく情報セキュリティ体制の基盤構築

安藤特任准教授から、資料 6 に基づき、報告があった。主な意見等は次のとおりである。

- ・ 参加機関側からのフィードバックを短い期間で気軽に受付けてほしい。例えば、通知情報を機械的に処理するため情報を付加してほしい、等。
 - メーリングリストに要望をいただき、対応できるよう進めていきたい。雑談を含めた情報共有の場がほしいとの意見もいただいたが、機微情報が含まれ得るため、まずはメーリングリストにお願いしたい。
 - 何らかの逼迫的な状況に対するリアルタイム性の向上に関しては、現行予算額によ

る制約がある点をご理解いただきたい。

- 用語に関して、参加機関への通知情報は、「要確認情報」であり、必ずしも「インシデント」ではないため、今後とも表現の正確性に留意する。
- 仮想通貨発掘は、多くはマルウェアによるものと推測される。仮に金銭目的の意図的な発掘の場合、セキュリティよりも大学資産の目的外利用が問われ、深刻性の程度に関わらず、サンプル規程集の対象外と考えられる。

5. オープンサイエンス研究データ基盤の整備

山地教授から、資料7に基づき、報告があった。主な意見等は次のとおりである。

- 日本学術会議が、科学研究健全性の向上について「データ・バックアップ用サーバーの提供など、インフラ整備」を研究機関の長の責任としたことに関し、大学等から、NIIによるストレージ共同調達や、データ管理基盤のストレージの大容量化・有料化について照会をいただいている。今後、大学との連携を更に進め、対応を定めていきたい。
- HPCIでもデータ共有は非常に大きな課題である。ポスト京は通常の計算基盤に対する性能差の乖離が甚大であり、例えばKEKや遺伝研等がより高度化したスパコンやクラウドにオフロードすることも考えられる。ネットワークやストレージへの要求が高まり、これに伴い、SINETへの負荷が高まることが予見される。
 - 地球シミュレータはネットワーク接続していなかった。京の接続帯域は必ずしも充分でない現状に対し、ポスト京はより広帯域なネットワーク接続が予定され、関係者のネットワークの重要性への認識が深まっている。
- 理研、遺伝研、がん研、産総研関係で、メディカルデータの扱いが大きな課題である。データ収容を伴うインフラ投資が多いが、トップレベルの研究成果を得るには自組織の計算資源では賅いきれず、分散的な処理が必要になる。データを扱うNIIには、広い意味でのセキュリティ、国際規格に則った認証取得が求められるようになるのではないかと。
 - オープンサイエンス研究データ基盤は、認証取得も視野に入れ進めているが、一方で、高エネや天文等の分野で扱う大容量データもあり、分野間の相違にも配慮が必要になる。また、ステークホルダも増えており、検討に当たっては、人文系の方などもお招きして良いのかもしれない。

6. 各作業部会報告

6.1. ネットワーク作業部会

漆谷主査から、資料8に基づき、活動報告があった。

- 新サービス・新機能（DDoS Mitigation、Telemetry機能、L2 オンデマンド、NFV、高速ファイル転送、等）は、大学等の要望を基に、共に開発等を進めている。広域データ収集基盤に期待をいただいている。今後、次期SINETに向けた議論を進める。

6.2. クラウド作業部会

合田主査から、資料 9 に基づき、活動報告があった。

- ・ オンデマンドクラウド構築サービスは、次年度にサービスインの予定であり、具体計画やユーザ層について議論した。また、オープンサイエンス研究データ基盤のデータ管理基盤におけるクラウドストレージ利活用について、意見交換を進めた。

6.3. セキュリティ作業部会

岡部主査から、資料 10 に基づき、活動報告があった。

- ・ 仮想通貨の影響、研究用ベンチマークデータ開発（匿名性担保）、マルウェア解析サイト利用（機微情報漏えいの可能性があるため、各機関の許可を要する）、NISC サイバーセキュリティ協議会からの参加要請等について、議論を進めた。

6.4. 情報セキュリティポリシー推進部会

曾根主査から、資料 11 に基づき、活動報告があった。

- ・ サンプル規程集は、政府統一基準 H28 年度版の改訂内容を反映し、公開した。NII-SOCS 利用、クラウド選定・利用、セキュリティ教育等に関しても更新している。情報セキュリティ教材「ヒカリ&つばさの情報セキュリティ三択教室」の修正版を公開した。

7. 学術情報基盤オープンフォーラム報告

事務局から、資料 12 に基づき、報告があった。

8. 学術情報ネットワーク運営・連携本部規程の一部改正について

事務局から、資料 13 に基づき、報告があった。

- ・ 部会員への NII 客員称号の付与について、多く労をいただいている委員の方々がより円滑に活動いただけるよう、明文化を図った。

9. その他

- ・ NII の活動の広がりに伴い、本会議で扱う案件が増えている。今後の運営に関し、会議時間延長、会議体の再構成も含め、検討させていただきたい。

以上